

日本物流団体連合会 物流標準化調査小委員会 調査概要

～物流拠点におけるパレットの利用実態に係るアンケート調査 結果概要～



2022年1月18日
(一社)日本物流団体連合会

アンケート実施概要

- 目的
 1. 物流センター、倉庫、ターミナル等、物流の結節点におけるパレット利用実態の定量化
 2. パレットサイズ標準化・統一化に向けて物流事業者からみた現状・課題の明確化
- 調査対象
 - 物流連 企業会員:69社 (@2~5拠点/社、複数回答含む、団体会員のぞく)
 - 日本倉庫協会会員:110社(全国11区、1~3類倉庫から任意抽出、@10社/区x 11区=110社)
- 方法
 - Eメールまたは郵送
- アンケート期間
 - 2021年8月16日~9月10日
- サンプル母数

+α
=阻害要因の分析、検討課題への
落とし込み

回答91社(138拠点分) 回収率:51%

	発送方法	発送数	回収数	回収率	拠点数
物流連	メール	69社	29社	42%	74
倉庫協会	郵送	110社	62社	56%	64
計		179社	91社	51%	138

結果まとめ(課題)

1、物流施設におけるパレットの利用状況

もっとも多い荷姿について
(n=137、複数回答)

- a.パレット貨物との回答:約5割(入庫:84件、出庫:70件)
- b.バラ貨物(倉庫等でパレ・デパレタイズ)との回答:2~3割超(入庫:37件、出庫:46件)
- c.パレット積替との回答:1割超(入庫:17件、出庫:19件)
- d.その他との回答:1割(入庫:6件、出庫:7件)

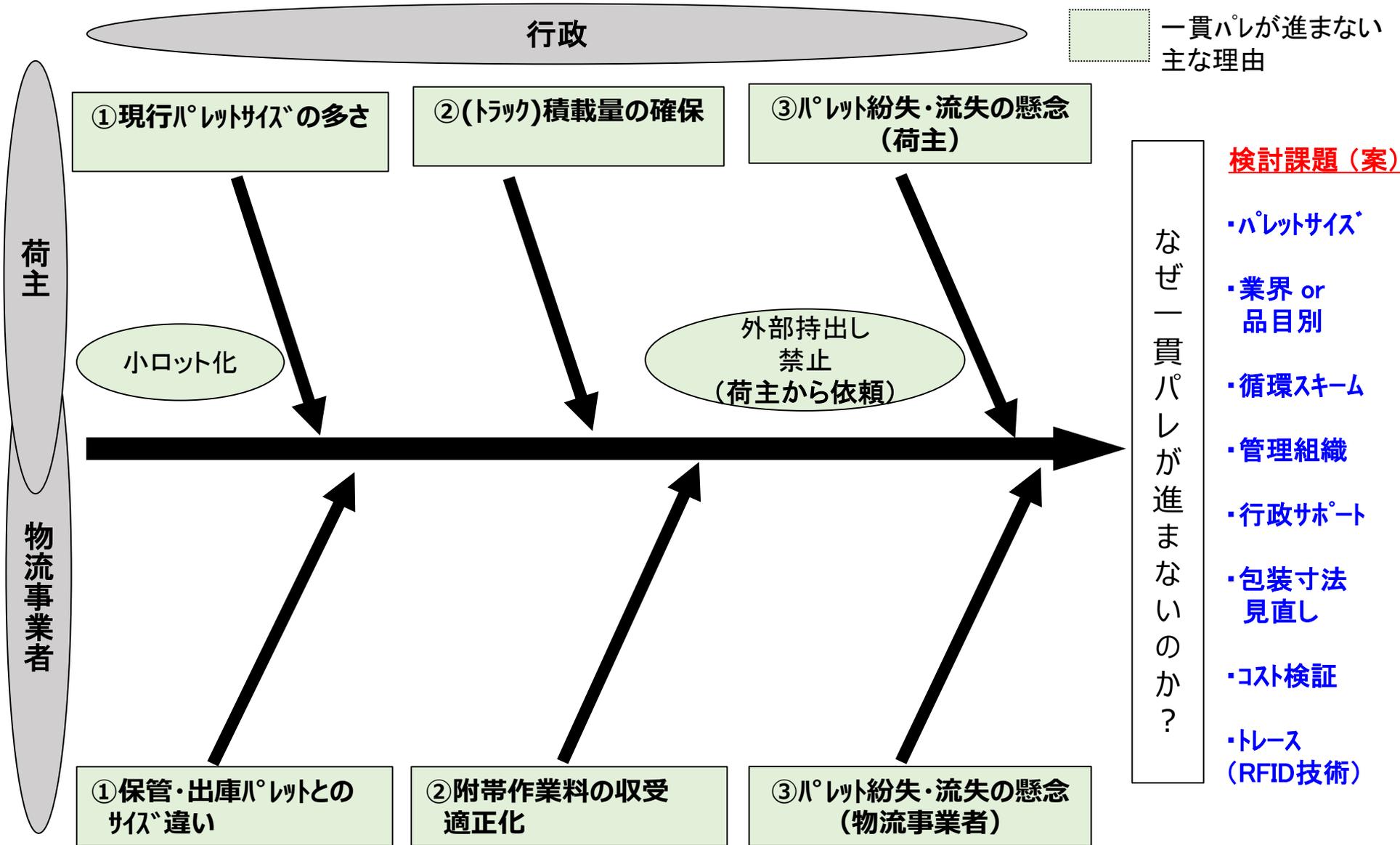
2、一貫パレが進まない主な理由

荷主 目線	物流業 目線	
	○	①自社パレット流失、紛失防止・・・上記b.c.に共通して第1位。
○		②(トラック)積載量の確保・・・b.の第2位
○		③発注・輸送口の小ささ・・・b.の第3位
	○	④保管・出庫パレットとのサイズ違い・・・c.入庫時の第1位
○		⑤発・着荷主からの依頼・・・c.の第2位
○	○	⑥顧客パレット流失、紛失・・・c.の第3位
○		⑦現行パレットサイズの多さ・・・主に4サイズ(T11, 14, 12, 9)
○	○	⑧附帯作業料の収受・・・納入先におけるドライバー自主荷役の改善
	○	⑨パレットの循環利用・回収に関する共通認識の形成(第三者的組織の必要性も)

3、パレット積替え、バラ貨物を削減するための方策について主な意見

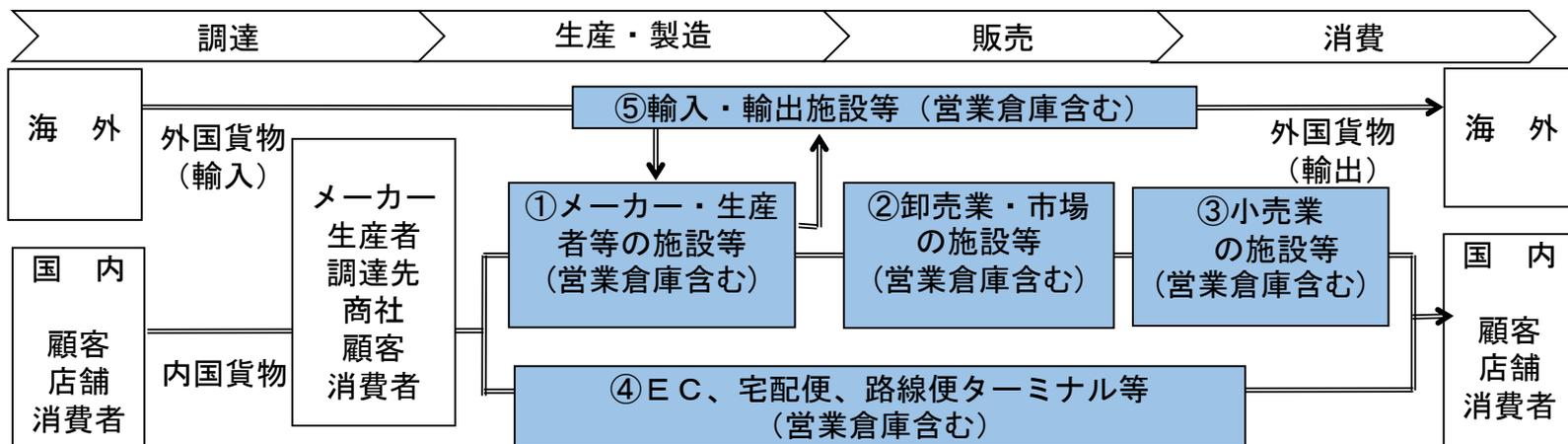
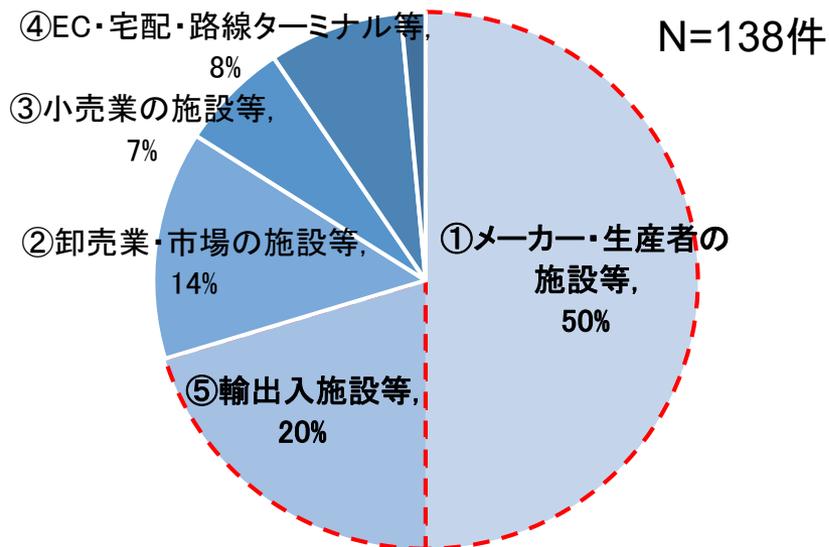
「荷主の協力や理解」がもっとも高く、次位が「業界レベルでのパレットサイズ規格の統一・標準化」。
また、規格の統一・標準化を推進するためには、「統一規格パレットの低コスト化」が最も高い。

なぜ一貫パレが進まないのか？ 要因分析&検討課題(案)



物流施設の属性

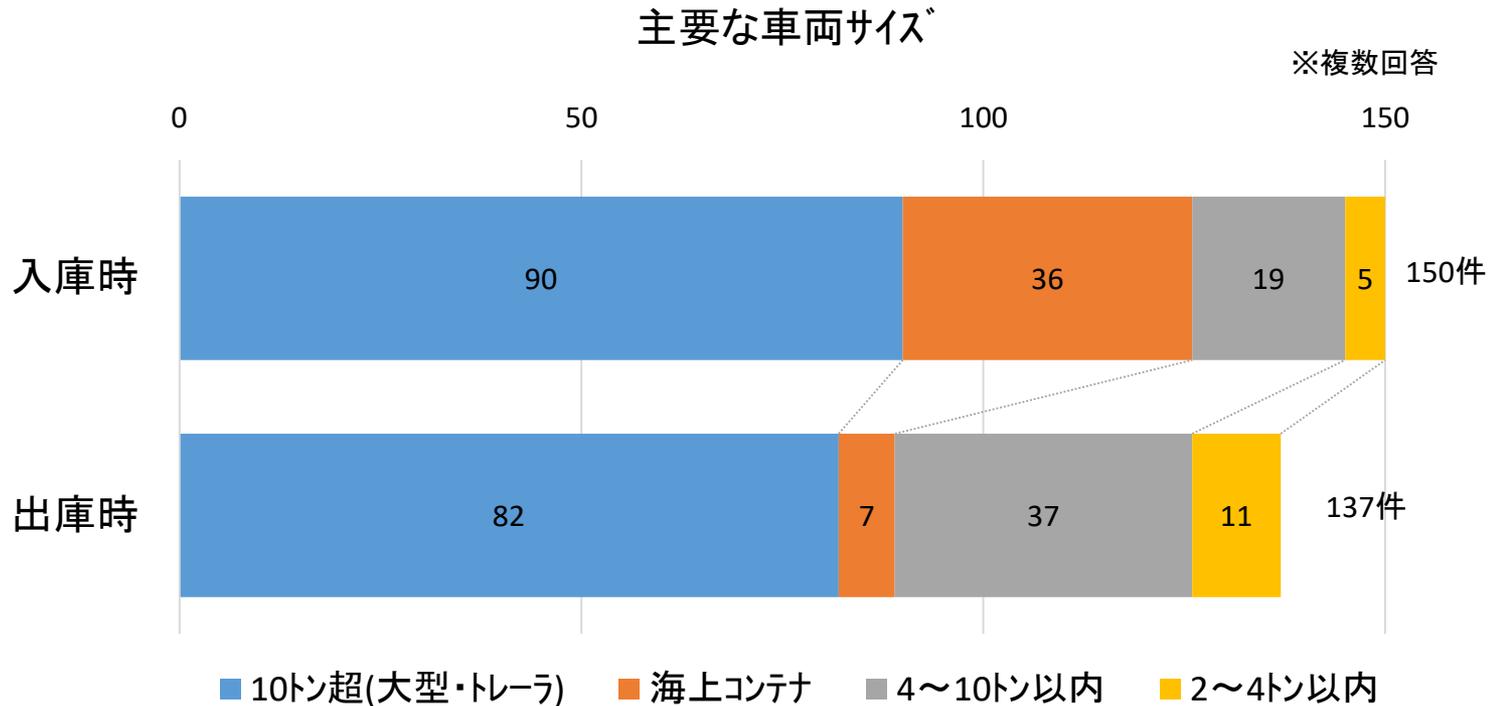
回答者の50%が①メーカー・生産者等の施設、20%が⑤輸出入施設に該当しており、サプライチェーン川上に位置する物流施設が多数を占める。



図：一般的なサプライチェーンと物流施設

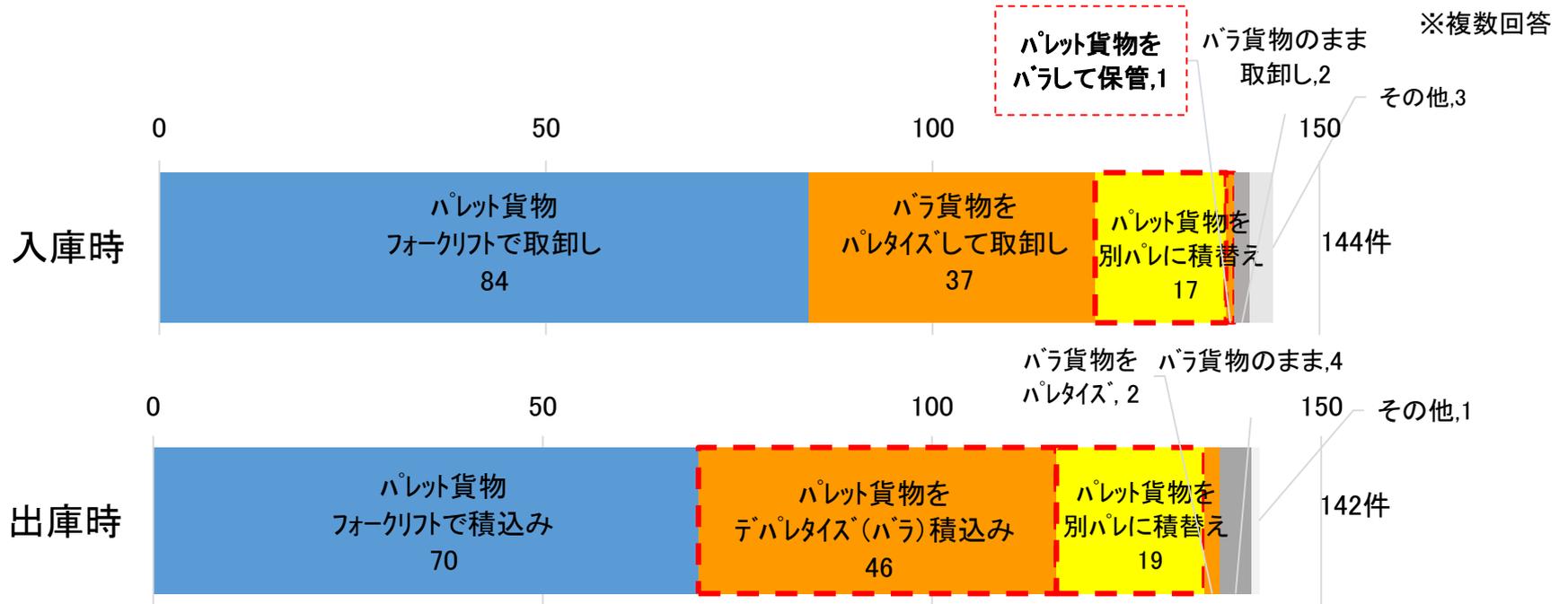
物流施設に出入りする車両サイズ

- ・主要なトラック車両サイズについての回答結果。
- ・入庫時・出庫時いずれも10トン超(大型・トレーラ)が過半数を占める。
- ・なお、入庫時における海上コンテナが多いことから、輸入品取扱いが多いものと推定。



入出庫時の荷姿（パレット貨物、バラ、パレット積替）

- ・もっとも多い荷姿についての回答結果。
- ・入庫、出庫とも「パレット貨物」扱いが半数程度ある一方、「バラ」、「別パレットに積替」扱いも約3～4割残る。
- ・破線部分については、その理由も確認(次頁)。



入出庫時に「パレット→別パレット積替」される理由

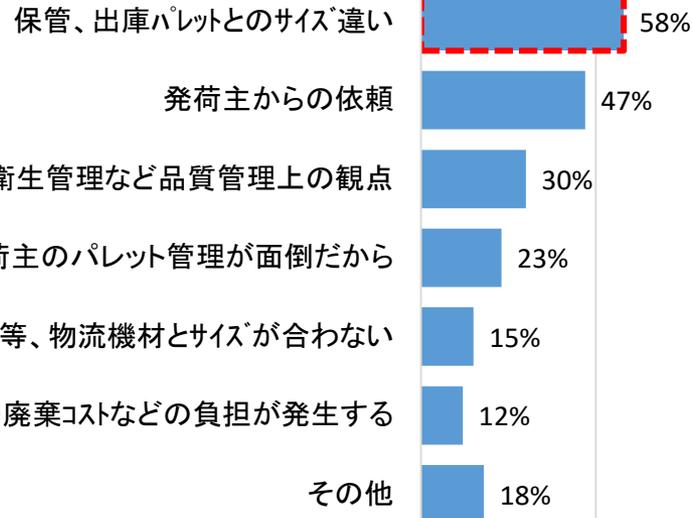
- ・入庫時は、「保管、出庫パレットとのサイズ違い」がもっとも多く、物流事業者の課題である。
- ・出庫時は、バラ取扱いと同様、物流事業者が「自社所有するパレット流失・紛失防止」がもっとも多い。

入庫時

(発荷主パレット→保管・納品用パレット積替)

複数回答 n=74件

0% 50% 100%

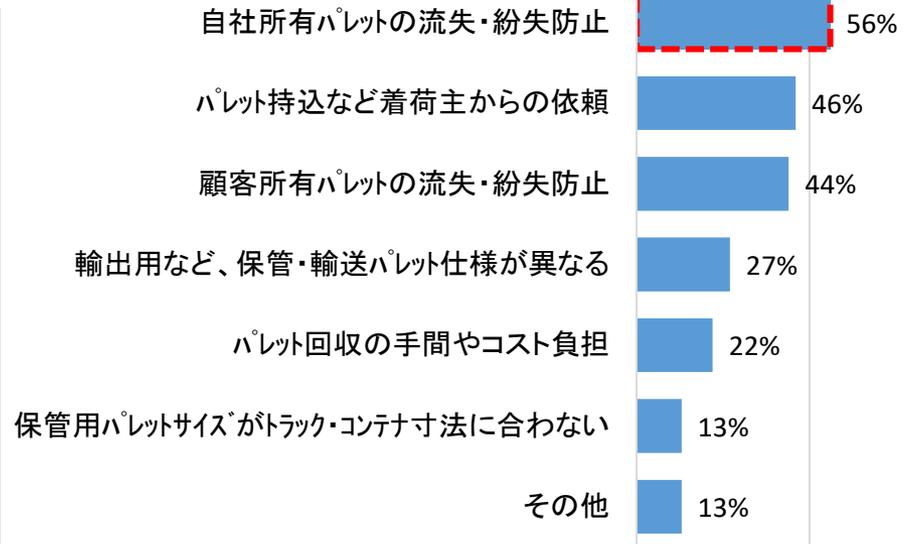


出庫時

(保管用パレット→納品用パレット積替)

複数回答 n=82件

0% 50% 100%



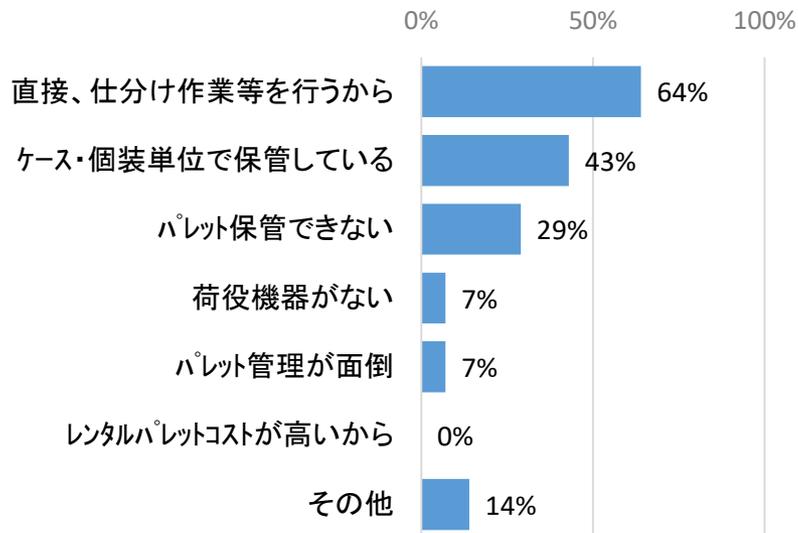
入出庫時に「パレット→バラ」取扱いされる理由

- ・入庫時は、n=14と少数意見、主に「直接、仕分け作業等を行う」、「ケース・個装単位で保管」など、取扱いがパレット単位でないことが理由。
- ・出庫時は、物流事業者の「自社所有パレットの流失・紛失防止」がもっとも高く「発注・輸送ロットが小さい」を上回る。

入庫時

(発荷主パレット → バラ)

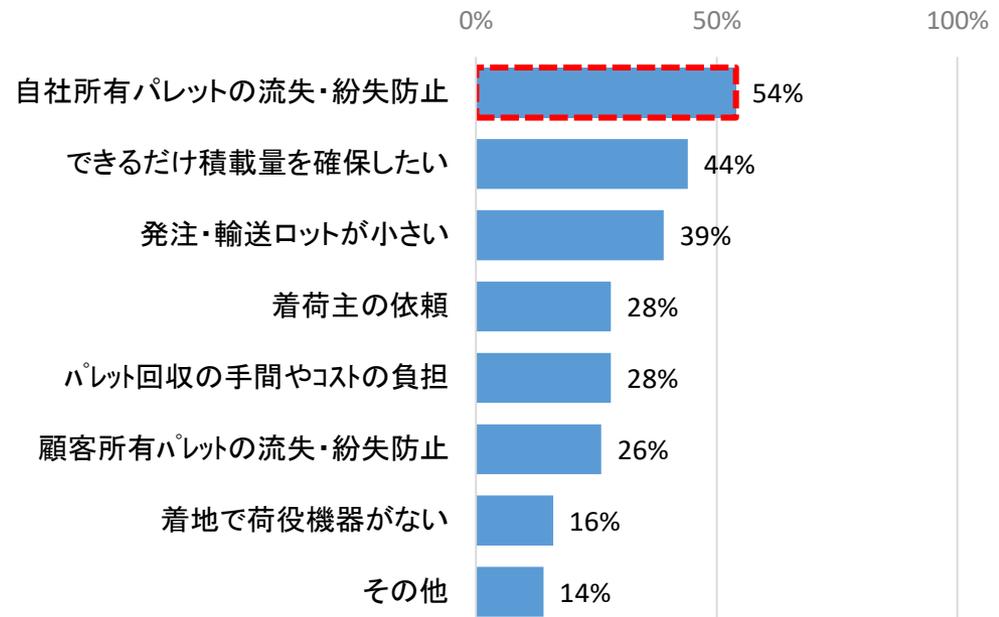
複数回答 n=14件



出庫時

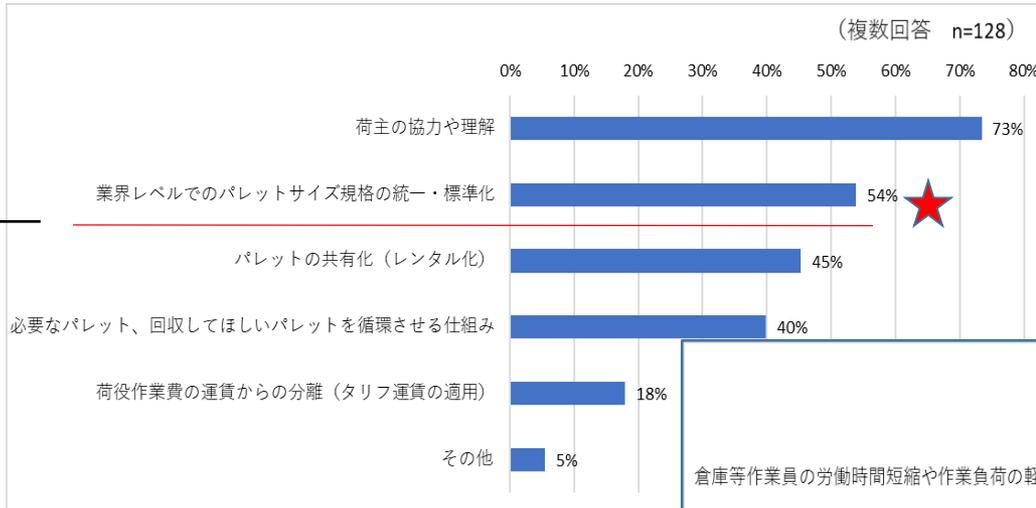
(発荷主・保管用パレット → バラ)

複数回答 n=102件

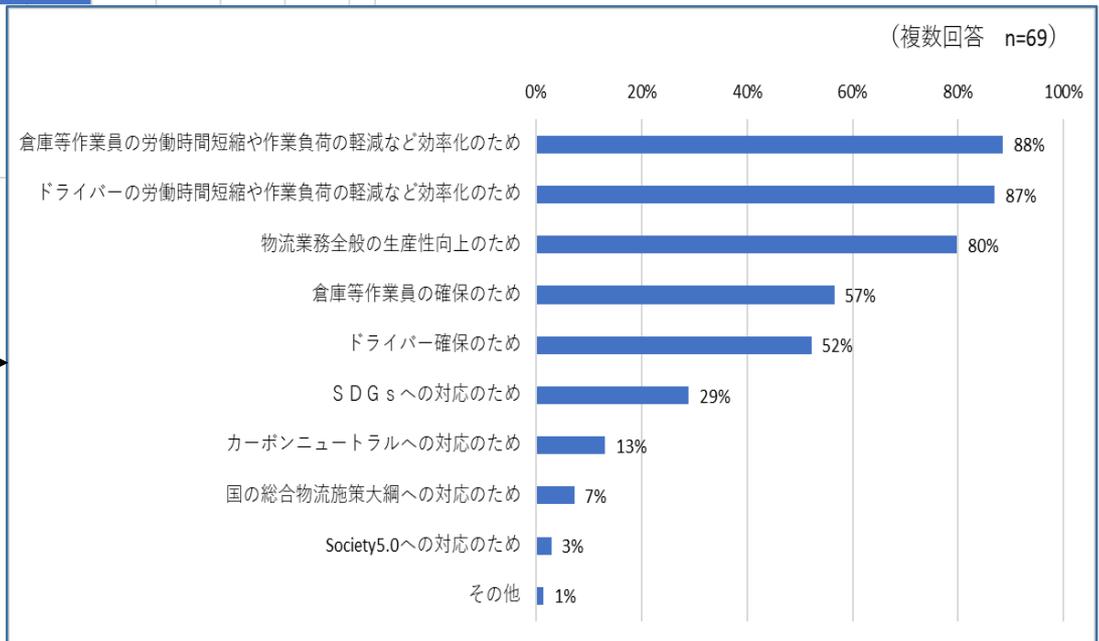


パレット積替やバラ取扱いを削減するための方策に関する意見

- ・荷主の協力や理解がもっとも高い。
- ・業界レベルでのパレット規格の統一・標準化について高い関心があり、その理由についても物流全般の生産性向上を望む意見が挙げられている。

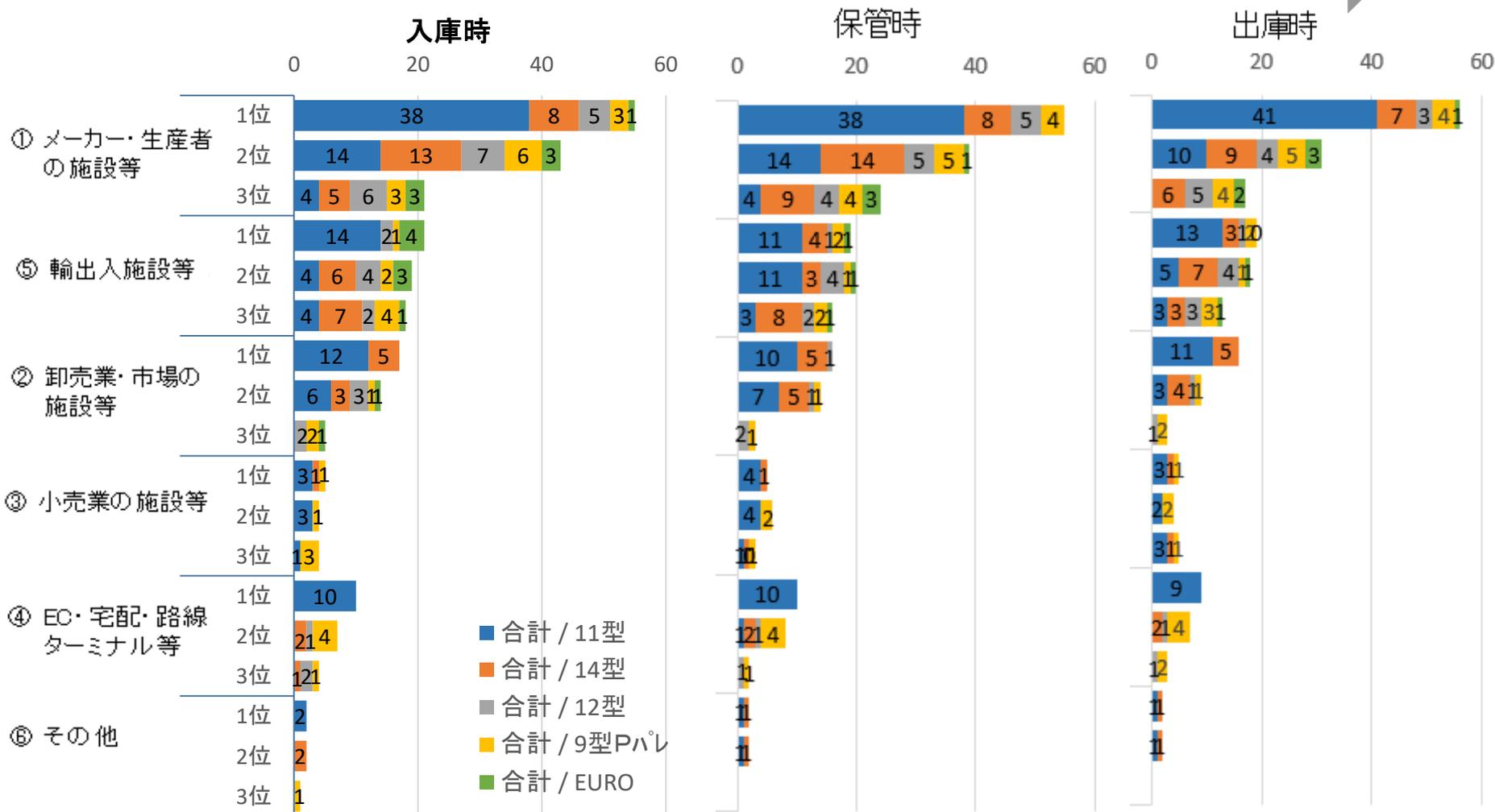


理由について



使用されているパレットサイズの多さ①（物流施設別）

・入庫、保管、出庫の各時点で使用されるパレットサイズ上位3位まで集計したところ、最も多いのは4種程度（T11型、14型、12型、9型の順）が確認された。



使用されているパレットサイズの多さ②（その他の具体的サイズ）

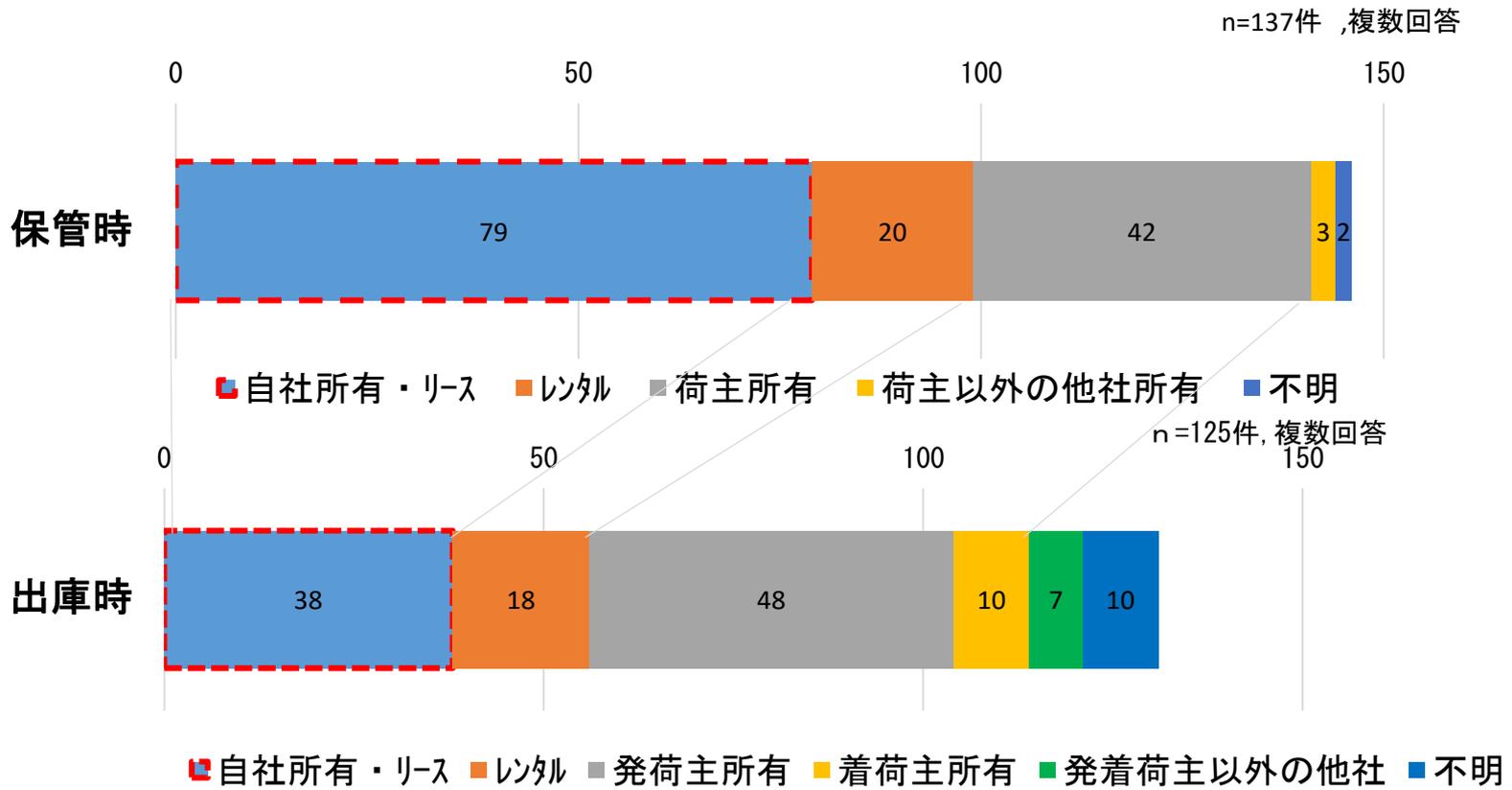
・入庫時、第1位で回答のあった「その他サイズ」寸法と「業種・品目」の分析結果。

（単位：mm）

業種・品目	入庫時	保管時	出庫時
製粉	1100×1250	1100×1250	1100×1250
砂糖	1500×1150	1500×1150	1500×1150
穀類	1900×800	（記載なし）	1900×800
	1150×1350 （シートパレット）	（記載なし）	（記載なし）
	1200×1500	1200×1500	1200×1500
化学品	1100×1200	1100×1200	1100×1200
	1100×2100	1100×2100	1100×2100

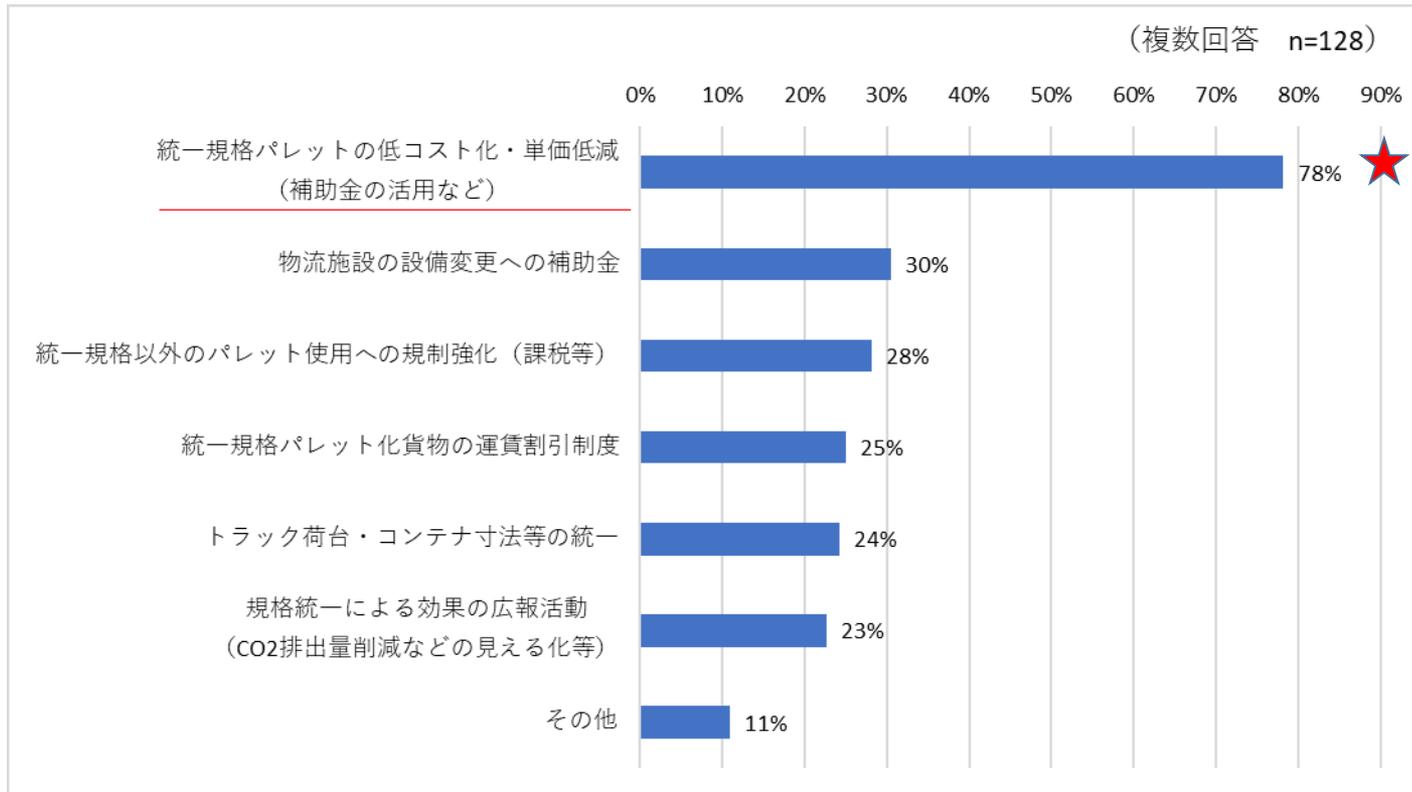
同一パレットによる保管・出庫の難しさ

- ・保管、出庫時におけるパレット所有者についての回答結果。
- ・保管時は、物流事業者の「自社所有・リース」が過半数と回答(※)する一方、出庫時に半減。
- ・保管時は物流事業者の所有であるものの、出庫時は荷主所有やワンウェイパレット等の不明パレットに積替えられる。(※)前述のパレット貨物取扱が半数との回答と整合性とれず。



パレットサイズ規格統一化・標準化に関する要望

・パレットサイズ規格の統一・標準化を推進には、統一規格パレットの低コスト化を望む声が多い。



(参考) 物流施設における代表的な取扱品目

物流施設で取扱う様々な品目のうち、代表的なものを一つ例示いただく。

